

訪問ガイド 2026

キュー・ガーデンズ

ロンドン・から 29.15€

https://kewgardens.visitetickets.com/ja/ ・優先入場チケット & 料金



歴史 & エクスペリエンス

起源 & 歴史

王宮から世界遺産への変遷

GOOGLE 4.7 ★★★★★ 54 492 レビュー

TIQETS 4.7 ★★★★★ 7 847 レビュー

1759年に設立されたこの場所は、もともと王族の私的な庭園として始まりました。ジョージ3世の治世下で、ウィリアム・エイトンやジョセフ・バンクス卿といった偉大な植物学者たちの尽力により、学術的な重要性を持つ国際的な機関へと変貌を遂げました。ビクトリア朝時代には、ウィリアム・ジャクソン・フーカーとその息子ヨセフが主導し、敷地は大幅に拡張され、現在の壮大な規模の基礎が築かれました。

建築面での飛躍は、1841年から1849年にかけて建設されたパームハウスに見られます。デシマス・バートンとリチャード・ターナーによるこの鉄骨構造は、当時としては革新的な技術の結晶であり、熱帯植物を保護するための巨大な温室として機能しました。この建物は、キューが単なる庭園ではなく、科学的探求の中心地であることを象徴しています。

2003年、ユネスコ世界遺産に登録されたことで、その価値は世界的に認められました。登録基準では、植物保全における卓越した普遍的価値が評価されています。数世紀にわたる科学的調査と、世界中から集められた生物多様性の保存において、この場所が果たしてきた中心的役割が強調されました。これは、生態系保全における歴史的意義を裏付けるものです。

現在、ここは年間約200万人の訪問者を受け入れる緑の聖域です。かつて王室的な静寂に包まれていた空間は、今では都市からの逃避行を求める多くの人々にとってのオアシスとなっています。広大さのおかげで、大衆観光の賑わいと植物園特有の静けさをうまくバランスさせ、時代を超えた魅力を保ち続けています。

体験

ビクトリアゲートをくぐった瞬間、ロンドンの喧騒が遠のき、深い緑の香りが鼻を刺激します。目の前に広がるのは、整然と配置された花壇と、歴史を感じさせる木々のトンネルです。朝の柔らかな光が葉の間を縫い抜け、空気中に微細な粒子を浮かび上がらせているのが見えます。この静謐な雰囲気は、訪れた者を瞬時に別の次元へ引き込む魔法のような体験を提供します。

歩を進めるごとに、視界は開けていき、テムズ川の水面が陽光を反射して輝いているのが見えます。風が運ぶのは、土の匂いと花の甘い香りだけ。ここでは時間がゆっくりと流れ、五感が研ぎ澄まされていきます。次の一歩で何に出会えるか分からないという期待感が高まり、探索への欲求を掻き立てます。



訪問の準備

実用的な情報

住所

ロンドン南西部・地下鉄: Kew Gardens (District Line) または Overground 電車。Victoria Gate に直結する出口があります。

開園時間

季節によって開園時間が異なります（冬は10時〜17時、夏は20時まで）。訪問前に正確な日付をご確認ください。

料金

大人は29,15€から。子供およびファミリー向け料金はオンラインで購入可能です。

所要時間

温室と主要庭園を急がずに楽しむには、最低でも4〜5時間を確保してください。野生のトレイルやコレクション全体を探索するには、1日かけて訪れることをお勧めします。

写真撮影

一部の特別展を除き、どこでも写真撮影が可能です。温室ではフラッシュを使用せず、他の来園者や光に敏感な植物に影響を与えないようご注意ください。

対象客層

遊具エリアとバリアフリー対応のトレイルがあるため、家族連れに最適です。また、植物学愛好家にもおすすめです。舗装された通路により、移動に制約のある方でも歩きやすくなっています。

アクセス方法

アクセス & 交通手段

🗺️ バス

: Kew Road / Victoria Gate (Stop R) — 5 min à pied

Kew Gardens Station (11 min) · パディントン駅 (45 min)

🚗 車

Kew Gardens Station (5 min) · Gare de Paddington (34 min)

🚲 自転車

Kew Gardens Station (5 min) · Gare de Paddington (45 min)

🚶 徒歩

Kew Gardens Station (9 min) · Kew Bridge (17 min)

LOCALISATION

Où se trouve キュー・ガーデンズ ?



📍 Richmond — TW9 3AB ロンドン

🌐 51°28.725′ N, 0°17.734′ O



組織

効率的な動線とエリア構成

主要温室エリア (Palm House & Temperate House)

訪問者の最初の目的地となるべきエリアです。巨大なガラス屋根の下で、熱帯雨林の湿気が漂うPalm Houseは圧巻のスケールを誇ります。Temperate Houseでは、Treetop Walkwayと呼ばれる空中遊歩道から、亜熱帯植物の頂上を眺めることができます。これらの建物内は気候が安定しており、天候に関係なく快適に過ごせます。解説パネルは詳細で、希少種の理解を深めるのに役立ちます。

日本庭園 (Nippon Teien) と東洋エリア

日本の伝統的な美意識が凝縮された空間です。カラフルな橋や彫像、そして季節ごとの花木が織りなす景観は、特に若い訪問者を魅了します。静かな池の周りを散策しながら、瞑想的な時間を過ごすことができます。このエリアは風から保護されており、家族連れや高齢者にとっても歩きやすい舗装された通路が続いています。写真撮影の絶好のスポットでもあります。

野外トレイルと野生林 (Wild Wood)

より自然に近い環境を求める訪問者向けのエリアです。舗装されていない小道や不規則な芝生エリアを通り、野生の植物や動物との遭遇を楽しめます。121ヘクタールの広大な敷地の一部を占め、完全な探索にはかなりの体力が必要です。ここでこそ、ロンドンという都市の中心部にあるとは思えないほどの原初の自然に触れられるでしょう。

アクセシビリティ

♿ 車椅子アクセス

舗装された広い通路、温室へのスロープ、受付での車椅子貸出サービスがあります。

👨‍👩‍👧 ファミリー向け

家族連れのための定期的な休憩に最適なピクニックスペース、遊具エリア、日陰のあるベンチがあります。

🎧 オーディオガイド

日本語, 英語, スペイン語



必見スポット

選択

絶対に外せない見どころスポット

01

Main Greenhouse

Palm House

ビクトリア朝の建築技術の粋を集めたこの温室は、巨大なヤシの木が並ぶ壮麗な空間です。鉄骨とガラスで構成されたドーム状の天井は、自然光を最大限に取り込み、内部を明るく照らします。熱帯雨林の湿潤な空気感は、ロンドンにいることを忘れさせてくれます。中央の通路を歩くだけで、まるで熱帯地方を旅しているような錯覚を覚えます。

> 💡 建設当時は、鍛鉄の使用が画期的であり、当時の建築基準を大きく超える規模を実現しました。

02

SIR WILLIAM CHAMBERS Pagoda Area

中国風パゴダ

1761年に建設されたこの象徴的な構造は、ジョージ朝時代の中国趣味を反映しています。高さ約30メートルの塔は、庭園全体の視覚的焦点となっており、どこからでもそのシルエットを確認できます。吊り橋から見る角度が最も美しく、背景にテムズ川を含めることができます。歴史的なティーサロンも併設されており、休憩に最適です。

> 💡 設計者は実際に中国を訪れた経験はなく、想像力に基づいてデザインされました。

03

Japanese Garden

Nippon Teien (日本庭園)

1937年に完成したこの庭園は、日本の伝統的な造園技術を用いて設計されました。赤い橋、石灯籠、そして季節の花々が調和のとれた景観を作り出しています。特に春の桜や秋の紅葉は見事ですが、一年を通じて独自の魅力があります。静寂に満ちた空間で、心の平穏を取り戻すことができます。

> 💡 建設資金の一部は、日英同盟の友好関係を示すために寄付されました。

04

Subtropical Greenhouse

Temperate House

亜熱帯地域に自生する植物を展示する巨大な温室です。Treetop Walkwayからは、樹冠層の高さから植物を観察できる独特の視点を得られます。ランやパイナップルなどの多彩な植物が、湿度の高い環境の中で生き生きと成長しています。垂直方向の空間利用が巧みで、一つの建物の中に多様な生態系を再現しています。

> 💡 内部の温度と湿度は、自動制御システムによって精密に管理されています。

05

Historic Building

Kew Palace

庭園の中に佇む18世紀の王宮で、サイトの貴族的な歴史を垣間見ることができます。内部は当時の家具や調度品で飾られ、王室の日常生活を再現しています。小さな規模ながら、豪華絢爛なインテリアが特徴です。庭園の他の部分とは異なる、室内での落ち着いた雰囲気を味わえます。

> 💡 ジョージ3世の家族が住んでいた部屋の一つは、オリジナルの装飾のまま保存されています。

06

New Exhibition Space

Evolution House

比較的新しい施設で、5つの異なるバイオームを通る独自の垂直体験を提供します。一つの建物の中にこれほど多様な植物があるのは圧巻です。解説パネルは非常に出来がよく、出会った希少種のそれぞれを理解するのに役立ちます。進化の過程を視覚的に学ぶことができる教育的なスポットです。

> 💡 設計コンセプトは、地球の歴史を時系列で辿ることにインスピレーションを得ています。

07

Woodland Trail

Wild Wood

人工的な手入れを最小限に抑えた自然林エリアです。木々のトンネルを抜ける小道は、都市部の公園とは全く異なる原野の感覚を与えます。野生の鳥類や小動物との遭遇も期待できます。静寂の中で自然の音に耳を傾ける時間は、精神的なリフレッシュに最適です。

> 💡 このエリアの一部は、自然再生プロジェクトの一環として近年整備されました。

08

Central Water Feature

Main Lake

庭園の中心部に位置する大きな湖です。周囲を散歩しながら、水面に映る木々や空の景色を楽しむことができます。ピクニックスペースが点在しており、昼食休憩に最適な場所です。夕暮れ時には、水面が金色に染まる美しい光景が見られます。

> 💡 湖の畔には、歴史的な噴水が設置されており、涼むのに役立ちます。

アドバイス

完璧な訪問のための実践ガイド

TIMING

人通りの少ない小道と理想的な朝の光を楽しむために、10:00の開園直後に到着してください。観光客グループは通常11:30以降に殺到し、温室がより混雑します。

BILLET

事前購入で入場が保証され、窓口での行列を避けることができます。大人1人あたりの目安料金は29.15ユーロ程度です。スムーズな入場のために、確認メールをスマートフォンに保存してください。

PARCOURS

温室と主要庭園を急がずに楽しむには、最低でも4〜5時間を確保してください。野生のトレイルやコレクション全体を探索するには、1日かけて訪れることをお勧めします。

PHOTO

背景にテムズ川を含めるために、吊り橋から中国風パゴダを撮影してください。Treetop WalkwayはTemperate Houseに対する独特の空中視点を提供します。硬い影を最小限にするために正午の時間帯を避けてください。

PAUSE

複数のカフェが速食メニューを提供していますが、価格は季節によって異なります。節約するためにピクニックを持ち込み、川沿いの日陰のベンチで味わってください。

ENFANTS

日本庭園はカラフルな橋と彫像のおかげで最も若い訪問者を魅了します。長時間の散歩のために頻繁な休憩を計画し、水を携えてください。温室は風から保護された環境を提供します。

AUDIOGUIDE

日本語、英語、スペイン語に対応したオーディオガイドを利用できます。公式マップは開いている温室と期間限定展示を特定するのに役立ちます。オフラインでアクセス可能に保ってください。

CONFORT

121ヘクタールの完全な訪問には少なくとも15,000歩が必要です。一部の小道は舗装されていますが、他のものは不規則な芝生エリアを通ります。一日中快適なスニーカーは必須です。



よくある質問

よくある質問

キュー・ガーデンズのチケットは事前に予約する必要がありますか？

はい、特にハイシーズンや週末には行列を避けるためにオンライン予約を強くお勧めします。事前購入により優先入場口から直接入場でき、貴重な時間を節約できます。開園直後に温室を訪れたい場合、特に便利です。

現地でのチケット購入は可能ですか？

窓口での購入も可能ですが、混雑時は長い行列ができることがあります。ストレスなく入場を保証するため、具体的な時間帯を選択できるオンライン購入をお勧めします。これにより、一日を落ち着いて計画できます。

学生やシニア向けの割引はありますか？

有効な学生証を提示する学生およびシニア向けに、通常割引料金が設定されています。条件は時期によって異なる可能性があるため、購入前に公式サイトでご確認ください。訪問当日は身分証明書をお持ちください。

キュー・ガーデンズの見学にはどのくらいの時間がかかりますか？

温室と主要庭園を含む完全な見学には、少なくとも4〜5時間を確保してください。奥まったトレイルや専門コレクションを探索したい場合は、1日かけて訪れることをお勧めします。開園時に到着すると、探索時間を最大限に活用できます。

絶対に外せない見どころは何ですか？

Palm House、Temperate House、そして有名な中国風パゴダは見逃せません。Nippon Teien の日本庭園も、瞑想的な休憩に最適な落ち着いた空間を提供しています。これらの場所は、この植物園の歴史的・美的な核心部を構成しています。

ご存知ですか？

エピソード＆トリビア

世界最大の植物園

121ヘクタールと3万種以上の生きた植物を擁し、この場所は公式に世界で最も広い植物園として認定されています。この広大さは、湿潤熱帯地域から乾燥地域まで、他のどこでも再現不可能な生態系の多様性を可能にしています。

巨大な標本集

コレクションには、700万点以上の標本が含まれており、顕著な科学的精度で保存されています。これらの植物アーカイブは、植物の進化とその環境相互作用を研究する研究者にとって無価の生物学的記憶を構成しています。

ビクトリア朝の遺産

1759年に設立され、ジョージ3世の治世およびビクトリア朝時代に主要な機関へと変貌しました。この拡大期は現在の建築と、学術植物学および異国植物収集における国際的な基準としての地位を定義しました。

年間200万人の訪問者

毎年、約200万人がこの緑の聖域の門をくぐり、街からの逃避行を楽しみます。この絶えない来訪者は、その場所の時代を超えた魅力を示しており、その広大さのおかげで大衆観光と植物園の静けさをうまくバランスさせています。

博物館周辺

庭園の周辺にも魅力的なスポットが点在しています。まず注目すべきは、庭園内に佇む**Kew Palace**です。18世紀の王宮で、貴族的な日常を垣間見ることができます。また、テムズ川を見下ろすDe La Warr Pavilionは、モダニズム建築の傑作であり、文化的な休憩に最適です。食事には、宝塔の足元にあるThe Pagoda Tea Roomsがおすすめです。樹齢百年の木々の下での優雅なティータイムは格別です。さらに、隣接するRichmond Parkでは野生のシカを観察でき、Cineworld Richmondでは映画鑑賞で一日を締めくくることも可能です。



この庭園を去るとき、心に残るのは美しい風景だけでなく、自然との深い繋がりを感じた安らぎです。121ヘクタールという広大な敷地の中で、私たちは自分自身の小ささと、生命の驚異的な豊かさを同時に実感できます。一度訪れるだけでは足りないほど奥深いこの場所を、ぜひあなたのペースでゆっくりと味わってみてください。